

165.腎臓病患者に対するCTおよび検査データを用いた栄養診断についての研究

研究の概要

骨格筋量の減少は、転倒や骨折、ADL低下につながります。さらに近年では、誤嚥性肺炎や術後合併症との関連も報告されています。しかし、骨格筋量の減少にはDXA法やBIA法の診断など、測定機器がないことやマンパワー不足に加え、BIAが使用できないペースメーカー利用者などによって正確な診断が出来ない現状があります。さらに、低栄養の診断には体重、BMIに加えて骨格筋量による評価が必要です。BIAやDXAなどの機器を有しない施設やBIA、DXAが使用できない患者に対して、採血（シスタチンC）を用いた骨格筋量の推定が可能になる可能性があり、腎臓病を有する患者様への応用が可能かを検討したいと考えています。

研究の目的と方法

本研究の目的は、腎臓病患者の栄養状態について検討することです。日常診療で得られた臨床データ（年齢、生化学検査、摂取エネルギー量およびたんぱく質・脂質・炭水化物などの栄養素量など）を電子カルテから集計・統計分析を行う後ろ向き研究です。

本研究の参加について

これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。本研究にご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございました際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

調査する内容

本研究は、令和3年4月1日～令和4年6月1日の期間中に国立病院機構熊本医療センター腎臓内科に入室した患者さま13例を対象としています。新たに試料・情報を取得することではなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。

調査期間

研究対象期間：令和3年 4月 1日～令和 4年 6月 1日まで

研究実施期間：倫理委員会承認後～令和 6年 3月 31日まで

研究成果の発表

調査した患者さまのデータは、集団として分析し学会や論文で発表します。また、個々の患者さまのデータを発表するときも個人が特定されることはありません。

研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 加來正之

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 加來正之

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 加來正之

電話 : 096-353-6501